自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、それを念頭に置いて日々のケアにあたるよう、指導・実践をしている	３年前に職員による事例検討会を行い、「地域密着型グループホームでの利用者の意義ある暮らし」について、職員から意見が出て話し合いを通して事業所理念の見直しを行った。理念は事務室に掲示され全職員はそれを共有化に努めている。	事業所職員による研修の中で、現場の日々の暮らしを支援する中から生まれた理念であるが、入居者、家族への説明等の発信は行われていない現状が窺えた。今後は、利用者家族等への見学時、入居説明時、地域の方やボランティア活動等へ参加してくださる協力者へ説明するなど、共有できるよう、継続した取り組みを期待したい。
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝の掃除や日中外に出る際など、また地域の回覧板などを持っていくときなど、利用者と一緒に出かけ、こちらから声を掛けるようにしている。	２年目に入った認知症カフェ「おひさま喫茶」や地域の「お茶のみ広場」、事業者が提供している地域密着型サービスへの理解が得られ、まだ少数ではあるが、地域の方の参加が定着し日常的な交流が行われている。今後も三条市からの委託事業「支援型カフェ」へ参加企画案を検討するなど、より地域と繋がりながら交流に努めて行こうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域と自治体との要望について話し合いを行っている。 又認知症カフェなど、在宅介護者らに向けた取り組みも行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にスタッフも参加することで、内容について意見などももらった場合積極的に反映できるようにしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。家族、地域包括センター職員、自治会長等の参加があり、現状報告などが行われている。	管理者による事業所の実践報告が行われているが、報告が主な内容となり、参加メンバーが限られている現状がある。今後は会議記録等を整備し、職員や家族がいつでも確認できることや、利用者、家族、民生委員、自治会、ボランティア、同地域の他事業所の職員等々の参加者により、事業内容の検討や意見交換が行われ、サービス向上に繋がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時報告・相談・指導などをいただいており、また毎月の広報誌送付なども行っている。その他、認知症サポーター養成講座や家族介護支援事業などにおいても、互いに協力し取り組んでいる。	行政とは認知症カフェ開催や認知症サポーター養成講座等、いろんな方面での協力関係が継続できるよう連絡を取り合い連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除く一切の施錠を行わないようにしている。また、拘束とまでいかないが、活動や発言を抑制してしまうようなことが無いか、指導している。	事業所では施錠は夜間のみとし、「身体拘束禁止は一切しない」ことを確認しながら日々のケアを継続している。マニュアルは整備され、外部研修、伝達内部研修が行われている。姿勢保持や介護動作の確認等を含め、整体師の内部研修を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を職員に伝達、確認してもらい、各自で意識して虐待防止に努めている。事業所研修も行った。	職員からの言葉かけで、不適切ケアがある時は管理者やリーダーが注意したり、その職員に話を聞くようにしている。職員による上司や同僚に言いにくいことは、法人内カウンセラーに相談できる体制となっている。	言葉かけの中で、不適切ケアが有れば、直接注意をしているが、「虐待の防止に関する研修」が行われていない現状が窺える。今後は虐待が見過ごされることがないよう、全職員への研修や職員のストレスチエックなどへの配慮を期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人がついている利用者様が4名となり、職員間での理解も広がってきているが、まだまだである。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・利用契約書については十分な時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置とともに、普段から家族が意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。訪問時は必ず現況報告をし、要望があった時は検討し「出来ること」は即実行している。	意見箱にはなかなか意見は入らず、利用者アンケートは取っていないとのことである。面会時に家族より直接意見をいただくことがあり、良くお話を聞きその都度対応できるように、できるだけ丁寧に聞くように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議や個別での面談を行い、定期・不定期に聞く機会を設けている。	今回ユニット毎、外部評価の項目を使用し、自分たちの日々のケア内容について話し合われた。管理者は意見が出やすいように声掛けを意識しており、勤務時間や業務内容など職員の意見が反映された部分もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標設定と管理などにより、能力や実績の判定などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については社内での年間計画を基に、内部・外部研修を多く取り組む機会があり、社員のスキルアップを惜しまず会社ぐるみで実施している。又それ以外でも事業所独自での勉強も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に地域内や他の市町村でも、ホームへの見学や研修などの場における交流を進めるように働きかけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートの活用や家族からの情報収集などで本人が安心して暮らせるように本人本位の支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には細かく、本人、家族を含めて要望等を伺い、悩み等に関して、可能な限り力になれるよう関係性築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が何を必要としているのか細かに聞き取りを行い、他のサービスを取り入れる必要のある時は、家族と話し理解を深めて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決まった人になってはいるが、調理などを、手伝ってもらっている。また、畑や庭の植木などの手入れにおいては、いろいろ意見を聞いたり、作業の中心となって頂いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに現状についての報告や、何かあったときの相談もしながら、利用者本人を共に支えていくようにしている。 認知症カフェにも参加してもらい、本音を言える環境を整えている。	「グループホーム介護計画作成の流れ」という書面を作成し、管理者は入居時、センター方式の記入を家族に説明と依頼をし、記入していただけるところは家族に記入してもらうなど、本人の意向とともに、家族の意向把握を大切にしている。認知症カフェ等にも地域の方と共に家族の参加もあり関係作りに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人を迎え入れたり、又は思いの深い場所に出かけて行ったりして、本人を支えている。	週１回５００円会費で、お茶とお昼食事のついた地域のお茶会コミュニティに参加の複数名の方や馴染みの美容室への送迎にて、関係が継続していけるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同一フロア内だけでなく、フロアを超え、新たに利用者同士に絆が生まれるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要のある場合はお便りや電話などによる連絡を行って、継続的なつながりを維持している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族などから、今までの生活歴などの聴取をしたりして、どうしたいか、どうして行きたいかをつねに念頭に置いている。	家族から記入してもらったセンター方式を基に、ユニッツト毎の計画作成者が、暫定1ヶ月のプランを立てている。その後担当職員も加え、アセスメント修正・加筆等々し、正式な計画書を作成している。そのカンファレンスには、計画作成者、担当職員、当日出勤職員が参加している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの歩みをセンター方式に示し、内的体験に耳を傾け、本人のなじみの暮らしを深く知るように努めている。	事業所では日々の生活を大切に考えており、やりたいことが続けられるように、本人の馴染みの暮らしに近づくよう支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常について個々に記録して保管してあり、申し送りや個別ミーティング、カンファレンスなどを行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成段階や作成後にスタッフやご家族との話し合いを行って、必要であれば手直しを加えてサービスの実施をしている。	センター方式シートを活用しながらアセスメントを行い、担当職員と計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。モニタリングは月に一度行い、介護計画は原則6ヶ月ごとの見直しとしているが、状態変化や要望に応じて随時見直しを行っている。本人・家族に書面で流れを説明しながら意向を確認するなど、介護計画作成のプロセスの明確化に向けて、仕組み作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の作成とスタッフがいつでも見れる場所に置いての情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院時の福祉タクシー利用のサポート、看護体制の必要な場合の、訪問看護サービスの併用も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に運営推進会議で自治体とのネットワークを維持し、必要時には、成年後見制度導入へのサポートも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族の間に必要に応じて介入して、適切な関係が続くようにサポートしている。また、通えない方に対して往診してくれる内科医、歯科医との連携も図っている。	受診は原則家族同行としており、最近の様子や医師への質問等の書面を家族に渡し、かかりつけ医と事業所で情報共有をしながら連携を図っている。家族の同行が難しく、月1回の協力医の往診を利用している方もいるが、車イスを使用している方の送迎や大きな変化のあった方の職員同行など、希望する病院の医療を継続して受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや、協力医院の看護職とも連絡できる関係もあるため、必要に応じて相談することが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や入院医療機関の担当主治医、相談員などとの連携を密にして、相談対応を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のみとりについて、家族、医師と現状と今後について話し合って、できることと出来ないことのなかで、より良く過ごしていただけるように働きかけている。	今年度は重度化や結果的な看取りのケースがいくつかあり、事業所としての課題が浮き彫りになったと管理者は考えている。しかし、重度化や看取りに対して職員たちの積極的な支援の提案や前向きな考えが分かり、今後も出来る範囲で対応して行きたい意向がある。	今年度の実践経験が今後の事業所の方針を示し、住み慣れた場所での生活が継続していけるよう、重度化や看取りケアに向けたマニュアル作りや職員研修など、具体的対応の取り組みを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応に戸惑わず準備ができるよう実践力を養っている。	平成30年度は救急法に関する研修は設けられていなかったが、次年度5月に応急処置の研修会を予定している。連絡網は各ユニット毎に整備されている。	日常的に起こりうる事故や急変時に備えて、具体的な実践力を全職員が身に付けられるよう、マニュアルやフローチャートの整備と継続的な研修の実施を期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と消防・自治体と連携して、災害時に迅速な避難などができるようにしている。	年に2回、夜間の火災想定の避難訓練を消防署立会いの下、実施している。事務室にはハザードマップが掲示してあり、職員は避難場所や危険箇所の把握に努めている。また、地域的に水害の発生しやすい環境にあるが、6月には市の水害訓練が予定されており、事業所として参加する予定がある。	備蓄は災害時に備え、食料と水の確保はされていたが、期限が過ぎているという現状が窺えた。今後は災害発生時に必要な物品と管理方法を検討するとともに、地域住民の協力が得られるように働きかけていくことが望まれる。法人の協力体制を含め、有事に備えた具体的な取り組みが整備されることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの内容、タイミング、方法など個別に対応し、記録などについては広げたままなどにしないよう注意を払っている。	排泄介助時のさりげない声掛けの仕方や、広報誌の顔写真掲載の配慮、記録の管理等、利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を守るような対応を心がけて指導している。法人のプライバシー研修の職員参加もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の何気ない言葉を聞き逃さず、できる事は実践している。また、何をするにも本人に意思確認をし柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れが入居者の間で決まってしまっているところがあるため、その流れも重視しなくてはいけないが、そうでない人への対応もできる限り行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する衣服での外出や、なじみの美容院・床屋などはそのまま通えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の嗜好の把握とそのつどの食事時の反応などもみつつ、好みの食事に気をつけ、同時に手伝いも限られた方ではあるが、お願いしてしてもらっている。状態に合わせた分担をある程度行えている。	毎日の献立は冷蔵庫の中を見ながら利用者の食べたいものを聞いたり、健康面に配慮しながら季節のものを使って作っている。下ごしらえや配膳、後片付けは出来る範囲で一緒に行っている。また、雑穀米や乳酸菌飲料、発酵食品を献立に多く取り入れ、なるべく薬に頼らずに自然排便を促すよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事摂取量のチェックと食事内容の改善検討も行っている。水分も状態に合わせ、トロミ、ゼリーなど形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室での口腔ケアだけでなく、状態に合わせて食堂脇の洗面所で口腔ケアをしていただいたり、介助も行ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンについて把握に努め、トイレへの誘導の声掛けなども工夫して行っている。	介助が必要な方が多く、一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情やしぐさ、血圧などのサインを見逃さないようにし、トイレで排泄できるように支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の対応について、医師の意見も取り入れて、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでもという訳にはいかないものの、午前中から夕方までの間で、利用者の希望の入浴時間で言葉かけをしている。	入浴を好まない方が多く、時間を区切らずに希望の時間に入浴できるように対応している。手作りの入浴剤や変わり湯を企画したり、外出後に入浴のお誘いをするなど、スムーズな流れで入ってもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に捉われず、本人の生活習慣やその時の身体状況を見ながら休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬について内容を職員の身近にファイルしてあり、いつでも確認できるようにしている。また、必要に応じてカンファレンスなどにも取り上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯もの、食事の準備など、能力に合わせた分担がある程度機能している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑や玄関脇の花壇など、天候や気分に合わせてできる限りの支援をしている。外出レクリエーションだけでなく、家族との外出時にも必要な情報の提供や準備に対応して、気軽に出かけられるように配慮している。	近所のクレープ屋やリサイクル用品店へ買い物に出かけたり、畑や花壇の様子を見に行くなど日常的な外出支援を行っている。また、寺泊へのバス旅行や祭りの参加など、行事として計画を立てているものも多く、家族との外出支援を含め、出かける機会が積極的に持てるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個室内で金銭を置くことのできる方は限られているが、外出時などはきちんとお金を本人から渡してもらうように支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、季節に応じた手紙を出せる支援を行っている。また、必要に応じて電話の介助などおこなっており、要望に応じた対応が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り付けや生花なども飾っている。ソファーやいすなども様々な場所に配置し、好きな場所で好きなように過ごしてもらっている。	共用空間は広く、リビングには明るい陽光が差し込み、家庭的な温もりを感じる空間となっている。1階2階それぞれが利用者に合わせたソファやテーブルの配置となっており、一人ひとりの利用者が居心地よく過ごせるような工夫が窺えた。	事業所全体として物が多く、目の付くところに備品や福祉用具が置かれたままになっている状況が窺えた。いざという時の避難経路の確保のためにも、また、過ごしやすい環境整備の工夫に取り組まれることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり座れるソファや、手作業の出来るスペースであったり、環境に左右されずに、思いおもいに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りなじみの品物をよういしていただくように、入居前から家族には伝えてある。しかしながら、状況や本人の状態から難しいケースもある。	居室には洗面台とクローゼットが設置されており、利用者や家族と相談しながら馴染みの家具や思い出の品を持ち込んでもらうなど、落ち着いて過ごせる環境作りを支援している。畳を敷いて自宅と同じ生活習慣を継続している方もおられる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に環境面に危険はないかチェックするとともに、利用者の活動しやすい環境を整え対応している。		